

小麦枯熟れ様障害軽減のための栽培管理法							
【要約】 小麦枯熟れ様障害の発生は、小麦の奨励品種の中では「チゴ・イミ」が最も少ない。また、発生は播種時期が遅いほど、追肥量が多いほど軽減する。							
筑後分場・普通作物研究室					連絡先	0944-32-1029	
部会名	農 産	専門	栽 培	対象	麦 類	分類	指導

【背景・ねらい】

近年、筑後地域では、小麦が成熟期前10～20日頃に急激に枯れ上がる現象、いわゆる枯熟れ様障害が各地で発生し、小麦の収量、品質が低下している。そこで、枯熟れ様障害の発生しにくい品種、並びに発生を軽減する栽培管理技術を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

- ① 枯熟れ様障害の発生は品種間で差があり、「農林61号」、「ニシキ・コムギ」では多く、「チゴ・イミ」では少ない（表1）。
- ② 枯熟れ様障害の発生程度は、播種時期が遅いほど軽微である（表1, 2）。
- ③ 施肥量によっても発生程度は異なり、特に追肥量が多いほど、発生程度は軽くなる（表3）。

【成果の活用面・留意点】

- ① 麦栽培技術指針に掲載し、小麦の枯熟れ様障害の発生抑制技術として活用する。

〔具体的データ〕

表1 播種期、品種と枯熟れ様障害発生程度(平成3～4年)

播種期	農林61号	シカネコムキ	ニシカネコムキ	チカネイズミ
早播	2.3	1.0	1.9	0.5
標準播	0.2	0.0	0.2	0.0
晩播	0.0	0.0	0.0	0.0

注 ①達観調査による値(無:0～甚:5)。
 ②早播:11月5日播、標準播:11月19～24日播、
 晩播:12月4～5日播
 ③麦奨励品種決定調査による。(作物品種研究室)

表2 播種時期と枯熟れ発生面積割合(平成4年)

播種時期	枯熟れ発生 面積割合(%)
11月17日	33.9
12月2日	17.8

注 ①発生は坪状であった。発生面積割合は達観
 調査に基づき、反復の平均値を示した。
 ②供試品種:農林61号
 ③施肥法:3+4+2(Nkg/10a)、全区同量施肥。
 ④前作は大豆。

表3 施肥法と枯熟れ発生程度(平成3年)

施肥法(Nkg/10a) [基肥+追肥Ⅰ+追肥Ⅱ]	枯熟れ発生 程 度
2 + 3 + 0	2.5
2 + 6 + 2	1.7
4 + 3 + 0	2.3
4 + 6 + 2	1.2

注 ①達観調査による値(無:0～甚:5)。
 ②播種日:11月25日 ③供試品種:シカネコムキ
 ④前作は大豆。

〔その他〕

研究課題名:小麦枯熟れ様障害の発生原因の究明と対策

予算区分:経常

研究期間:平成5年度(平成3～5年)

研究担当者:松尾太、中村晋一郎、福島裕助、尾形武文、黒柳直彦

発表論文等:平成3～5年度筑後分場秋冬作試験成績概要書